大手前新聞　2020年（令和2年）3月1日　≪第21号≫

大手前新聞

創刊
2018年（平成30年）
佐伯市役所
大手前開発推進室
☎0972-22-4623

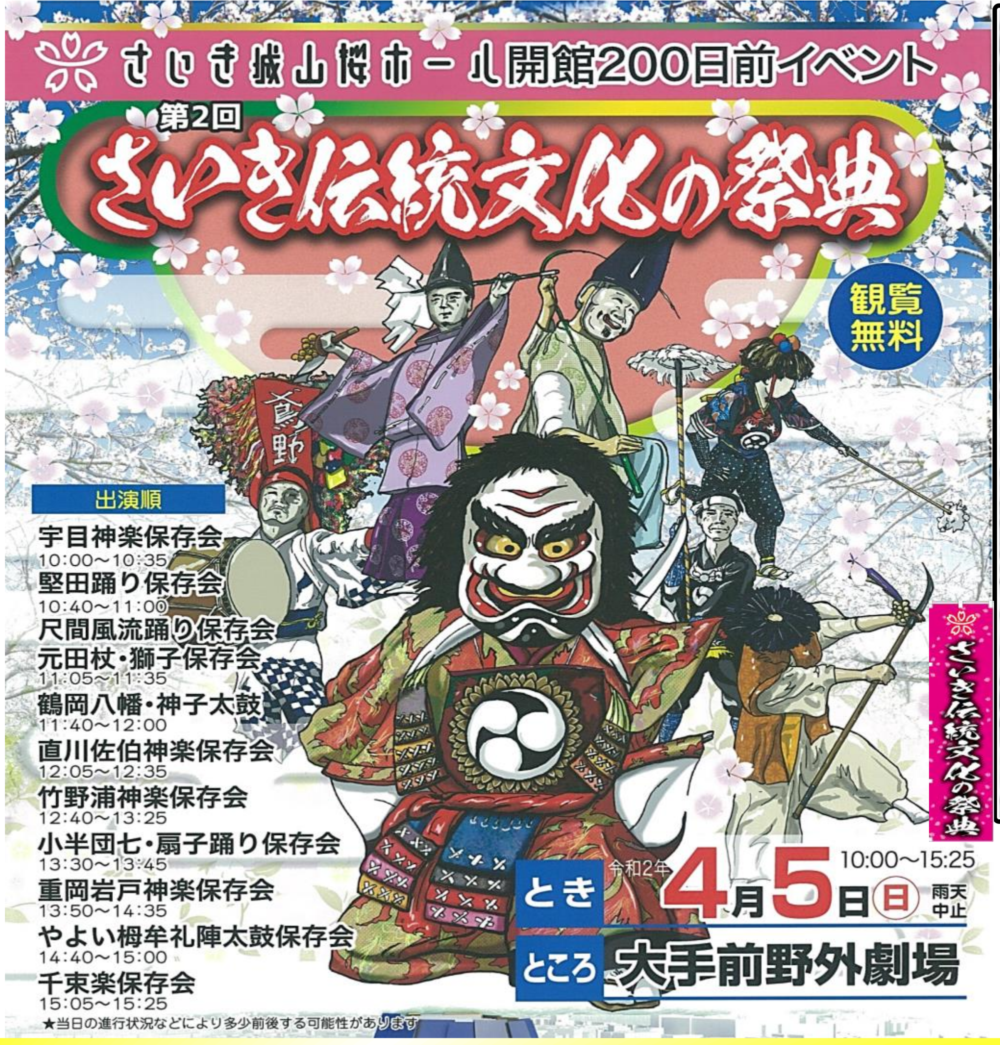
古より受け継がれし伝統

開館２００日前イベント「さいき伝統文化の祭典」

4月5日（日）10時～15時25分（雨天中止）、大手前野外劇場にて、さいき城山桜ホール開館２００日前イベント「さいき伝統文化の祭典」を開催します。

神楽あり、踊りあり、和太鼓あり。今回も、佐伯市に多数ある伝統芸能関係の団体のうち、11団体が出演し、地域の多彩な魅力を披露いたします。

平成30年４月１日に開催された第１回さいき伝統文化の祭典の様子


さいき城山桜ホール開館200日前イベント
第2回
さいき伝統文化の祭典
観覧無料
さいき伝統文化の祭典

出演順

団体	時間
宇目神楽保存会	10:00～10:35
堅田踊り保存会	10:40～11:00
尺間風流踊り保存会 元田杖・獅子保存会	11:05～11:35
鶴岡八幡・神子太鼓	11:40～12:00
直川佐伯神楽保存会	12:05～12:35
竹野浦神楽保存会	12:40～13:25
小半団七・扇子踊り保存会	13:30～13:45
重岡岩戸神楽保存会	13:50～14:35
やよい栂牟礼陣太鼓保存会	14:40～15:00
千束楽保存会	15:05～15:25

★当日の進行状況などにより多少前後する可能性があります

とき　令和2年4月5日（日）10:00～15:25　雨天中止

ところ　大手前野外劇場

開館準備検討会議

２月10日、さいき城山桜ホールの開館へ向け検討すべき事項に関し、意見や助言を頂く第４回目の外部有識者会議を開催しました。

この日の会議では、まず、当室から、建設工事の進捗状況、開館日の決定及び条例の制定、開館プレイベントの開催状況、ロゴタイプの作成及び開館準備ホームページ等の開設などについて報告しました。

次に、さいき城山桜ホールの事業計画及び備品計画についてお諮りし、各委員から貴重なご意見、ご助言を頂きました。

誰もが使いやすい施設を目指して

城山桜ホールは、必要な備品類の準備も進めています。

２月３日、ヤクシングループ・ヤクシン友の会様から、車いす５台のご寄附を頂きました。うち２台は当ホールで有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

世界に一つだけの

城山桜ホールに配備するピアノが決定しました。これからたくさんの方の手によって弾き継がれていくこのピアノは、ここでしか聴くことのできない特別な音色を永くこの場所で響かせてくれることでしょう。

配備するスタインウェイ（D-274）

道路と広場

さいき城山桜ホールの建設工事と並行して、建物周辺の道路や広場の整備も進めています。道路工事は、側溝などの整備がほぼ完了し、現在は舗装工事を主に行っています。広場の工事は、エノキなどの植樹や、マウンドの築造、テーブルやベンチなど休憩施設の整備を行っています。

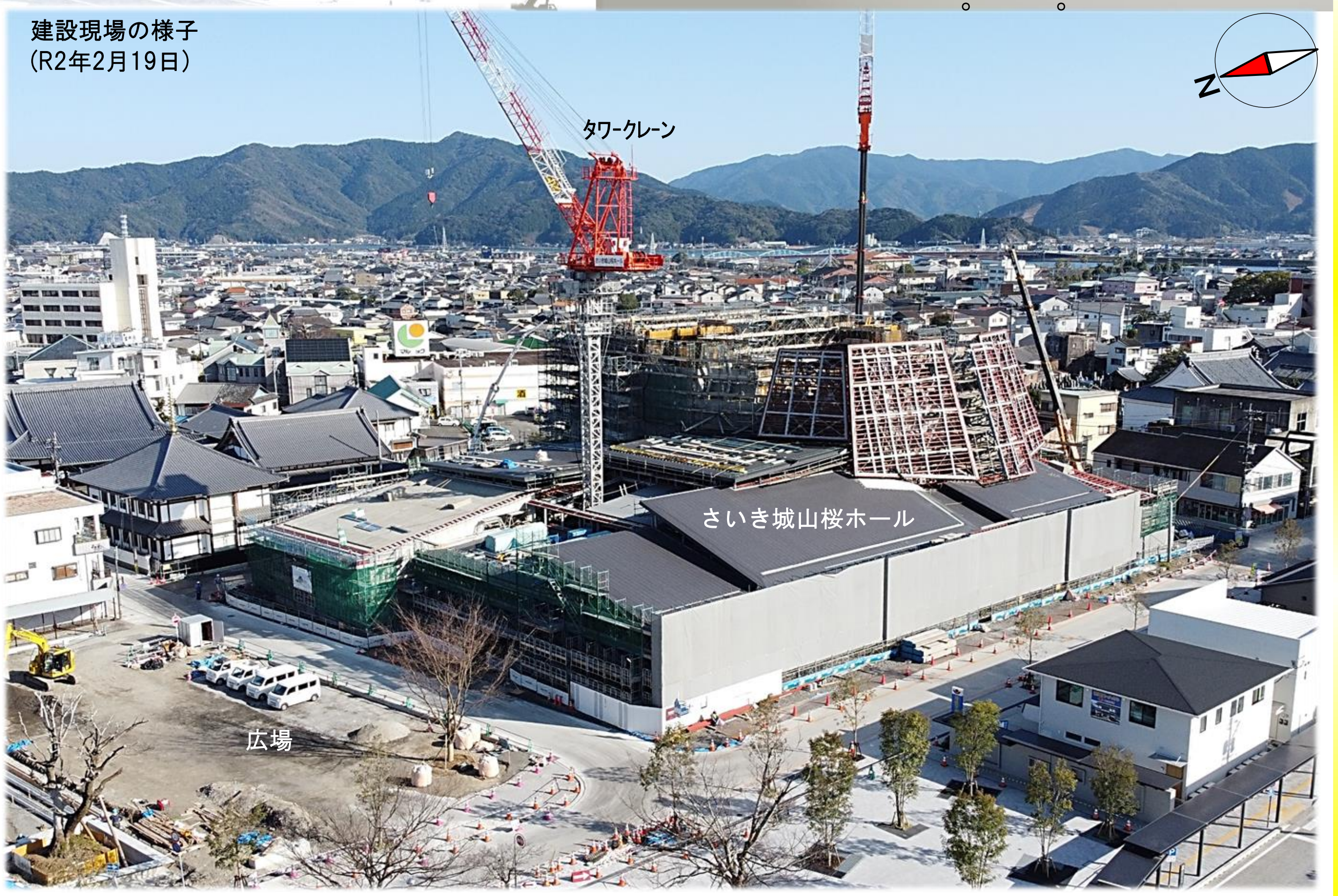
建設現場

さいき城山桜ホール

さいき城山桜ホールの建設工事は、主に内壁などの内装工事や、電気・機械の設備工事を実施しています。そして、外装工事は、いよいよホール部分最上階の屋根の取付けが始まりました。外から見ると城山桜ホールの完成が近づいていることが実感できます。

今後、屋根などの外装工事が進み、３月末にはタワークレーンが撤去される予定です。２０１８年11月から施工者の協力によりタワークレーンに装飾された煌びやかなイルミネーションも見納めとなります。

建設現場の様子
（R2年2月19日）



佐伯がいちばん！

まちづくりのきっかけとしての城山桜ホール

そして、わくわく大手前隊

私たち「わくわく大手前隊」は、ここ２年ほど開館前プレイベントとして、まちなかユース文化祭やさくらどんどんなどの行事を行いながら、城山桜ホールや私たち自身の活動報告を行ってきた団体です。メンバーの多数は、城山桜ホールの建設や完成後の運営に関して意見出しを行ってきた市民ワークショップから関わってきたメンバーであり、行政と民間が手を取りながら活動を行う「官民連携組織」です。

というのも、この建物の建設前の仮称は「まちづくり交流館」でした。この「まちづくり」というキーワードは、昭和中期まで牽引してきた行政主導型の都市計画（トップダウン方式）に対するアンチテーゼとして、市民一人一人の意見集約の機会を設ける（ボトムアップ方式）という意味合いを指します。佐伯市は市町村合併を機に、このまちづくりを重要視する大方針を描いてきており、城山桜ホールは多くの市民の声を反映させ、様々な検討を経てその象徴として完成を控えています。私たち自身が官民連携の一つのカタチとして通過点を通り、引き続きわくわく大手前隊は運営の一助として活動を続けていきます。城山桜ホールの開館は終着点ではなく、通過点であるということは非常に重要なポイントです。

また、市民ワークショップにおいては、本当にたくさんのアイデア（館の運営、イベント、まちの未来など）が出てきました。そして、わくわく大手前隊の中でも「あれしたい、これしたい、こうだったらいい」などの意見は引き続き出ています。一部のアイデアは実現してきましたが、その多くは実行に至っていません。アイデアや意見を主体的な行動として動かしたとき、数々の苦難や困難にぶつかることが当然のようで、私自身の実力の至らなさもあり、まだまだ機能的に動けているとはいえません。しかし、そうした障害を乗り越えていった先にしか変化はないように感じています。

わくわく大手前隊の「わくわく」には、表面的な楽しさだけでなく、各個人が内包する苦しくても辛くても、でも気づいたらそちらに向かってしまう情熱という意味合いがあります。佐伯というまちがさらに良くなるために私たちには何ができるか、何をやるべきか、人口減少・少子高齢化などという抗えない外的環境を漫然と受け入れるのではなく、明日のための一手に今日各個人が何ができるか、そうした行動する皆さんともっと出会いたいと思っています。佐伯にとっての“まちづくり“の中心地への関わり方は、私たち自身の一人一人に委ねられていて、その想いに関しては行政だの市民だのという垣根はなくなることと信じています。

追伸　個人的には城山桜ホールを拠点とした市民大学の講座受講が非常に楽しみです。

わくわく大手前隊
隊長 **曽根田 敏治**